食 品

1. 評価対象企業（23社）

日本水産、日清製粉グループ本社、江崎グリコ、山崎製パン、カルビー、ヤクルト本社、明治ホールディングス、雪印メグミルク、日本ハム、アサヒグループホールディングス、キリンホールディングス、コカ・コーラボトラーズジャパンホールディングス、サントリー食品インターナショナル、伊藤園、不二製油グループ本社、キッコーマン、味の素、キューピー、ハウス食品グループ本社、ニチレイ、東洋水産、日清食品ホールディングス、日本たばこ産業

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	7	36
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	26
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	8
計		24	100

（注）評価項目の内容および配点は 23 頁参照

(2) 評価実施アナリストは 21 名（所属先 19 社）である。（24 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（22 頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**ほか 2 分野において、項目の新設、削除、内容変更、配点変更又は内容・配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 67.5 点（昨年度 69.6 点）、総合評価点の標準偏差は 9.7 点（昨年度 9.8 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 66%（昨年度 68%）、**説明会等**が 68%（昨年度 72%）、**フェア・ディスクロージャー**が 79%（昨年度 83%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 63%（昨年度 65%）、**自主的情報開示**が 65%（昨年度 63%）となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**を除く 4 分野は共にわずかに低下した。
- ③ 評価項目について見ると、全ての評価項目のうち**フェア・ディスクロージャー**の次の項目が、平均得点率で 80%以上となり、高水準となった。

- (a) 「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等）を行っていますか」（平均得点率 84%）（得点率（評価点／配点（以下省略））：95%7 社・90%2 社・85%4 社・80%3 社）

- (b) 「外国人投資家にも配慮した英文による情報提供（決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等）を行っていますか」（新設）（平均得点率 81%）（得点率：95%5社・90%5社・85%2社・80%3社）
- (c) 「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 80%）（得点率：80%台 12社）
- ④ 一方、次の 2 項目は、平均得点率が 50%台となり、低水準となった。
- (d) 「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を開催していますか」（平均得点率 58%）（得点率：20%1社・30%3社・35%2社・40%2社・45%1社・55%3社）
この項目に関しては、積極的な会社と消極的な会社の格差が広がったことが特徴となった。
- (e) 「社長は説明会またはアナリストミーティングに出席し、投資家の関心事等について有意義なディスカッションができますか」（平均得点率 59%）（得点率：20%台 1社・30%台 3社・50%台 7社）
この項目において評価が低い会社は、投資家の関心に合致した議論がなされていないとの声が多かった。
- ⑤ なお、本年度に新設した項目（フェア・ディスクロージャーの 2 項目）については、次のとおりとなった。
- (f) 「説明会・電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能ですか」（平均得点率 71%）（得点率：95%4社・90%1社・85%2社・80%2社）
- (g) 「外国人投資家にも配慮した英文による情報提供（決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等）を行っていますか」（平均得点率 81%）（得点率：95%5社・90%5社・85%2社・80%3社）（③(b)参照）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 アサヒグループホールディングス(ディスクロージャー優良企業[3回連続 15 回目]、総合評価点 88.5 点〔昨年度比-1.5 点〕)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率（以下省略）92%）、説明会等（84%）、フェア・ディスクロージャー（92%）、コーポレート・ガバナンス関連（86%）、自主的情報開示（89%）の 5 分野全てにおいて第 1 位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「社長が説明会またはアナリストミーティングに出席し、投資家の関心事等について有意義なディスカッションができること」および「経営陣の IR 姿勢（情報集積の支援、IR 部門への権限委譲等）」が最も高い評価となった。また、「IR 担当者が経営陣の代弁者として十分に機能していること」および「IR 部門が各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等を積極的にアレンジしてくれること」も最も高い評価となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」、「財務情報と非財務情報（統合報告書、ESG 情報等）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」および「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」が共に最も高い評価となり、全ての項目（7 項目）で単独または同得点第 1 位となった。
- ③ 説明会等においては、決算発表日に「決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が、ウェブサイト等で入手できること」が最も高い評価となった。また、説明資料等により、「連結の事業種別・地域別の業績および利益増減要因（単価・数量等）について、分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていること」、「次期の連結業績予想にかかわる営業外収支、特別損益のみならず、法人税等、少数株主損益の見通し、予想の主な根拠が十分に記載されていること」および「キャッシュフロー計算書の実績のみならず、フリーキャッシュフローの見通しとその前提についても合理的に説明されていること」が共に高い評価となった。さらに、「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が、決算短信および同補足説明資料（同時に TDnet またはウェブサイト掲載ベース）の中で、十分に開示されていること」も最も高い評価となり、全 6 項目中 5 項目で単独または同得点第 1 位となった。ただし、「為替および原材料などの相場変動の感応度」の項目では、第 4 位にとどまり、次年度への課題となった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が最も高い評価となった。また、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等）を行っていること」、「説明会・電話会議のリプレイが電話やウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能であること」および「外国人投資家にも配慮した英文による情報提供（決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等）を行っていること」が共に最も高い評価となり、全ての項目（4 項目）で単独または同得点第 1 位となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」が高い評価となった。また、「中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等において十分説明されていること」も最も高い評価となった。さらに、「資本政策（資金調達、グループ持合政策、金庫株）について、客観的かつ合理的に説明されていること」および「配当政策・自社株買い等株主還元策について、客観的かつ合理的に説明されていること」が共に最も高い評価となり、全ての項目（4 項目）で第 1 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること」および「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること」が共に最も高い評価となった。また、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を開催していること」が高い評価となり、全 3 項目中 2 項目で単独または同得点第 1 位となった。特に、西欧・中東欧事業に関するテレビ会議に執行責任者が出席し、有益なディスカッションを行っていることを評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 キリンホールディングス（高水準のディスクロージャーを連続して維持している企業、総合評価点 84.1 点〔昨年度比+5.7 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 2 位〕）

- ① 同社は、説明会等（83%）、フェア・ディスクロージャー（91%）、コーポレート・ガバナンス関連（81%）が第 2 位、自主的情報開示が同得点第 2 位（83%）、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位（85%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社長が説明会またはアナリストミーティングに出席し、投資家の関心事等について有意義なディスカッションができること」および「経営陣の IR 姿勢（情報集積の支援、IR 部門への権限委譲等）」が共に高い評価となった。また、「IR 担当者が経営陣の代弁者として十分に機能していること」が評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が高い評価となった。加えて、「財務情報と非財務情報（統合報告書、ESG 情報等）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」が高い評価となったほか、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」も評価された。なお、豪州事業のさまざまな課題に対する説明が不十分との指摘があったほか、IR 部門の情報発信の改善を期待する声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、決算発表日に「決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が、ウェブサイト等で入手できること」が高い評価となった。また、説明資料等により、「連結の事業種類別・地域別の業績および利益増減要因（単価・数量等）について、分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていること」が高い評価となった。さらに、「為替および原材料などの相場変動の感応度について、分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていること」、「次期の連結業績予想にかかわる営業外収支、特別損益のみならず、法人税等、少数株主損益の見通し、予想の主な根拠が十分に記載されていること」および「キャッシュフロー計算書の実績のみならず、フリーキャッシュフローの見通しとその前提についても合理的に説明されていること」が共に評価された。加えて、「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が、決算短信および同補足説明資料（同時に TDnet またはウェブサイト掲載ベース）の中で、十分に開示されていること」が最も高い評価となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が高い評価となった。また、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等）を行っていること」、「説明会・電話会議のリプレイが電話やウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能であるこ

と」および「外国人投資家にも配慮した英文による情報提供（決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等）を行っていること」が共に最も高い評価となった。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」が評価された。また、「中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等において十分説明されていること」も評価された。さらに、「資本政策（資金調達、グループ持合政策、金庫株）について、客観的かつ合理的に説明されていること」が高い評価となったことに加え、「配当政策・自社株買い等株主還元策について客観的かつ合理的に説明されていること」も評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリーかつ積極的に開示していること」が評価された。また、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること」が最も高い評価となった。
- ⑦ ただし、同社の総合評価点の低下の一因は、**経営陣の IR 姿勢等**の評価低下（得点率で-7ポイント、評価点で-2.4点）であり、全体の成長戦略を合理的に説明することなどに課題も残した。

同社は3回連続して第2位の評価を受けたので、「**高水準のディスクロージャーを連続して維持している企業**」に選定した。

第3位 不二製油グループ本社（総合評価点 81.2点 [昨年度比-0.7点]、昨年度第3位）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第2位（86%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第3位（77%）、**説明会等**が同得点第4位（77%）、**フェア・ディスクロージャー**が第5位（88%）、**自主的情報開示**が同得点第6位（75%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社長が説明会またはアナリストミーティングに出席し、投資家の関心事等について有意義なディスカッションができること」が評価されたことに加え、「経営陣の **IR 姿勢**（情報集積の支援、**IR** 部門への権限委譲等）」が高い評価となった。また、「**IR** 部門が各事業部のトップや事業部門全般について語る人へのインタビュー等を積極的にアレンジしてくれること」が高い評価となった。さらに、「**フェア・ディスクロージャー・ルール**の趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」および「財務情報と非財務情報（統合報告書、**ESG** 情報等）を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいること」が共に高い評価となった。加えて、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」が最も高い評価となった。
- ③ **説明会等**においては、決算発表日に「決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が、ウェブサイト等で入手できること」が評価された。また、説明資料等により、「キャッシュフロー計算書の実績のみならず、フリーキャッシュフローの見通しとその前提についても合理的に説明されていること」が高い評価となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等）を行っていること」が高く評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等において十分説明されていること」が評価された。また、「資本政策（資金調達、グループ持合政策、金庫株）について、客観的かつ合理的に説明されていること」および「配当政策・自社株買い等株主還元策について客観的かつ合理的に説明されていること」が共に評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を開催していること」が最も高い評価となった。また、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること」が評価された。なお、米国 **Blommer** 事業概要および財務戦略説明会において、投資家・アナリストと米国法人のトップとの意見交換の場を設けたことを評価する声が寄せられた。

(2) 上記以外の企業についての特記事項

○ 日本水産（総合評価点 73.2 点〔昨年度比+4.2 点〕、第 7 位）

同社は、フェア・ディスクロージャー（86%）、自主的情報開示（75%）が同得点第 6 位、経営陣の IR 姿勢等（70%）、コーポレート・ガバナンス関連（71%）が第 7 位、説明会等が第 8 位（73%）となった。昨年度に比べ、全ての分野の得点率が改善し、総合評価点の上昇（上昇幅は第 1 位）につながった。なお、本業種で昨年度に比べ全ての分野の得点率が改善した企業は、同社のみであった。

以 上

2019年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (食品)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)		1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスタ ンクローシャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
		評価点	順位	評価項目7 (配点36点)	評価点	順位	評価項目6 (配点26点)	評価点	順位	評価項目4 (配点12点)	評価点	順位	評価項目3 (配点8点)	
1	アサヒグループホールディングス	88.5	1	33.0	1	21.9	1	11.0	1	15.5	1	7.1	1	1
2	キリンホールディングス	84.1	3	30.6	3	21.5	2	10.9	2	14.5	2	6.6	2	2
3	不二製油グループ本社	81.2	2	30.8	2	20.0	4	10.5	5	13.9	3	6.0	6	3
4	味の素	77.4	5	27.3	5	20.0	4	10.6	3	13.3	4	6.2	4	4
5	明治ホールディングス	77.3	4	28.7	4	19.3	7	10.3	6	12.9	6	6.1	5	7
6	日本ハム	74.4	6	25.6	6	19.7	6	9.5	12	13.0	5	6.6	2	9
7	日本水産	73.2	7	25.2	7	19.0	8	10.3	6	12.7	7	6.0	6	
8	日本たばこ産業	72.5	12	23.1	12	20.7	3	10.6	3	12.6	8	5.5	8	5
9	ニチレイ	68.5	11	23.3	11	17.6	12	9.6	11	12.6	8	5.4	10	12
10	カルビー	68.0	8	24.9	8	18.0	10	9.7	10	10.9	13	4.5	19	11
11	キッコーマン	67.1	16	21.9	16	18.6	9	9.5	12	12.3	10	4.8	16	6
12	日清食品ホールディングス	65.9	12	23.1	12	16.4	15	9.4	14	11.5	11	5.5	8	10
13	伊藤園	64.6	9	24.2	9	17.7	11	8.4	18	8.9	20	5.4	10	8
14	サントリー食品インターナショナル	63.7	15	22.5	15	16.4	15	10.2	8	9.6	18	5.0	14	16
15	日清製粉グループ本社	62.3	14	22.6	14	14.8	22	8.4	18	11.4	12	5.1	13	18
16	ハウス食品グループ本社	61.6	10	23.5	10	14.0	23	9.3	15	10.0	16	4.8	16	14
17	キユーピー	60.2	18	20.1	18	16.2	17	8.3	20	10.7	14	4.9	15	17
18	コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス	60.0	17	20.9	17	15.5	19	9.9	9	10.2	15	3.5	22	13
19	ヤクルト本社	58.4	22	18.2	22	16.9	14	9.0	16	8.9	20	5.4	10	15
20	江崎グリコ	57.3	21	18.7	21	15.1	21	8.7	17	10.0	16	4.8	16	21
21	東洋水産	57.2	20	18.8	20	17.4	13	8.1	21	8.8	22	4.1	20	20
22	雪印メグミルク	56.3	18	20.1	18	15.7	18	7.8	22	9.2	19	3.5	22	19
23	山崎製パン	51.8	23	18.1	23	15.3	20	7.6	23	7.2	23	3.6	21	22
	評価対象企業評価平均点	67.46		23.70		17.73		9.46		11.34		5.23		

2019年度 評価項目および配点(食品)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (36点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。(情報集積の支援、IR部門への権限委譲等)	6
②社長は説明会またはアナリストミーティングに出席し、投資家の関心事等について有意義なディスカッションができますか。	8
(2)IR部門の機能	
①IR担当者が経営陣の代弁者として十分に機能していますか。	6
②IR部門が各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等を、積極的にアレンジしてくれますか。	2
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。	5
②財務情報と非財務情報(統合報告書、ESG情報等)を統合し、中長期的な企業価値の向上につながる開示に積極的に取り組んでいますか。	5
③会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (26点)	配点
(1)決算発表日の開示	
・決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が、ウェブサイト等で入手できますか。	6
(2)説明資料等における開示	
①連結の事業種類別・地域別の業績および利益増減要因(単価・数量等)について、分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	4
②為替および原材料などの相場変動の感応度について、分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	5
③次期の連結業績予想にかかわる営業外収支、特別損益のみならず、法人税等、少数株主損益の見通し、ならびに予想の主な根拠が十分に記載されていますか。	3
④キャッシュフロー計算書の実績のみならず、フリーキャッシュフローの見通しとその前提についても合理的に説明されていますか。	4
(3)四半期情報開示	
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が、決算短信および同補足説明資料(同時に、TDnetまたはウェブサイト掲載ベース)の中で、十分に開示されていますか。	4
3. フェア・ディスクロージャー (12点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	6
(2)ウェブサイト等における情報提供	
①ウェブサイトを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等)を行っていますか。	2
②説明会・電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで迅速かつ十分な期間の視聴等が可能ですか。	2
③外国人投資家にも配慮した英文による情報提供(決算説明会の資料および内容、質疑応答の状況、その他対外公表資料等)を行っていますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (18点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	6
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、説明会資料等において十分説明されていますか。	6
(3)資本政策、株主還元策の開示	
①資本政策(資金調達、グループ持合政策、金庫株)について、客観的かつ合理的に説明されていますか。	3
②配当政策・自社株買い等株主還元策について、客観的かつ合理的に説明されていますか。	3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (8点)	配点
①携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していますか。	4
②有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を開催していますか。	2
③統合報告書、ファクトブック、その他これらに準ずるものの内容は充実していますか。	2

食品専門部会委員

部会長	佐治 広	みずほ証券
部会長代理	角田 律子	JPモルガン証券
	マイケル ジェイコブス	ティー・ロウ・プライス・ジャパン
	高木 直実	SMBC日興証券
	角山 智信	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	守田 誠	大和証券
	矢野 節子	アセットマネジメント One

評価実施アナリスト（21名）

肥土 恵子	三井住友DSアセットマネジメント	角田 律子	JPモルガン証券
五十崎 義将	東京海上アセットマネジメント	角山 智信	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
高 英詞	野村アセットマネジメント	藤原 悟史	野村証券
佐治 広	みずほ証券	松崎 健人	三井住友DSアセットマネジメント
マイケル ジェイコブス	ティー・ロウ・プライス・ジャパン	三浦 信義	シティグループ証券
住母家 学	岡三証券	皆川 良造	野村証券
添谷 昌生	りそな銀行	守田 誠	大和証券
高木 直実	SMBC日興証券	矢野 節子	アセットマネジメント One
田中 英太郎	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	山田 陽子	三菱UFJ信託銀行
田畑 剛	野村アセットマネジメント	吉沢 泰	ニッセイアセットマネジメント
田村 真一	極東証券経済研究所		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。